

2009年10月22日

## 中期目標 モデル分析タスクフォースへの依頼事項について

東京大学 山口光恒

我々タスクフォースメンバーへの依頼事項は 25%削減に向けたコスト計算等の評価と理解している。しかし鳩山首相の国連気候変動首脳会合における演説では下記の通り前提条件が付されている（以下演説抜粋。下線は山口）。

「中期目標についても、温暖化を止めるために科学が要請する水準に基づくものとして、1990年比で言えば2020年までに25%削減を目指します」

「世界のすべての主要国による、公平かつ実効性のある国際枠組みの構築が不可欠です。すべての主要国の参加による意欲的な目標の合意が、我が国の国際社会への約束の『前提』となります」

諸般の事情を考慮するとこの前提が充足されない可能性がある。首相演説その他からはそうした場合の目標の具体的な数値の開示はない。

因みに、EUでは単独で90年比20%、EU以外の先進国がEUと同等の削減を約束し、主要途上国がそれぞれの責任と支払い能力に応じて相応の貢献をする場合には30%削減としている。

こうした中でタスクフォースでは25%を中心に検討することは当然のことながら、前提条件が充足されない場合に政府にとり参考になる代替案のコスト等を検討しておくことは、政府から見ても有用と思われる。

上記から私見であるが最低限下記4つのケースにつき検討をしておくことが必要と考える。

- 1) 真水で25%削減ケース
- 2) 25%削減を最小費用で達成するケース（海外オフセット活用）
- 3) 真水で15%削減ケース（05年比、これは既に一旦世界に向けて発信している）
- 4) 15%削減（05年比）を最小費用で達成するケース（海外オフセット活用）

以上